

北信濃里山通信 vol.30

2018年2月22日発行

「飯山市ふるさと館」企画展

『守ろう！つなごう！ 北信濃の生き物 ～蝶編～』

を開催します

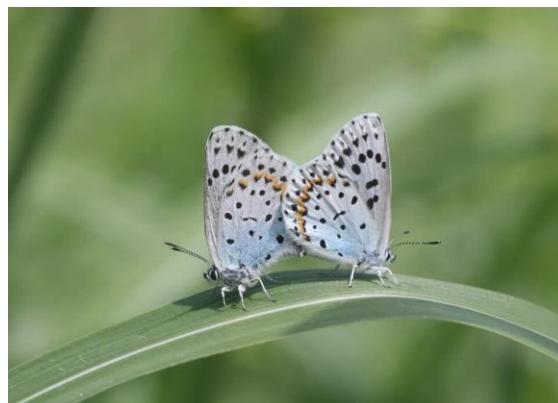
飯山市ふるさと館では、飯山の自然・歴史・文化など郷土に関する資料を展示していますが、年数回、テーマを設けた企画展が開催され、飯山の特徴的な文化を発信しています。

この春、企画展として『守ろう！つなごう！ 北信濃の生き物 ～蝶編～』を開催することとなり、今後も飯山の自然をテーマにして企画展を継続する予定でいます。

飯山市を含む北信濃では、かつてはあたり前のように見られた生き物が、今では稀少な存在になってしまったものも多く、その代表的なものに「オオルリシジミ」や「ギフチョウ」などの蝶類があげられます。当会や黒岩山保全協議会では、これらを保全し、次の世代へつないでいくための地道な活動を行っているところです。

今回の企画展では、これらの蝶類を中心に生態解説などを展示しながら、現在行われている保全活動を紹介したいと考えています。

この企画展の会期は平成30年4月28日（土）～6月17日（日）。期間中、ギフチョウやオオルリシジミの観察会を行いたいと考えています。この展示を機会に、多くの皆様に北信濃の自然に関心を持っていただけたら幸いです。



北信濃で保全活動が行われている「ギフチョウ」と「オオルリシジミ」

お知らせ

「定期総会」と「オオルリシジミ生息地雪原ウォーク」の開催

当会の2017年度事業実績の承認と2018年度事業計画を協議いただくため、3月10日（土）に「定期総会」を開催します。本年も昨年に引き続き、オオルリシジミの保全活動のほか、生息地のカヤ場利用や野鳥など生物調査などを行い、会員が楽しみながら里山の保全活用につなげていきたいと考えます。会員のみなさんからも、会の事業・活動に対して御要望・意見などをお寄せください。

総会終了後、午後からは、「オオルリシジミ生息地雪原ウォーク」として、雪に覆われた生息地に向かって自然観察をしながら歩き、生息地で野焼き実施のための消雪剤（炭の粉）の散布を行いたいと思います。

消雪剤散布は昨年も実施し、火災予防のため、散布したところを早く雪解けさせて、周囲に雪の土手を作り野焼きを行う試みでしたが、野焼き予定の時期に雨が続き、雪解けが予想よりも進んでしまい、結局実施できませんでした。

本年、再びチャレンジしようという試みです。草原環境維持のためにも野焼きの有効性が指摘されていますが、オオルリシジミにとっては、ススキなどの枯れ葉の堆積層が厚くなると地温が上がらず、土中の蛹の羽化に影響することが考えられるので、可能な限り実施したいところです。今年もうまくいくかわかりませんが、消雪剤を現地まで運ぶ必要がありますので（一人あたり2～3kg?）協力をお願いします。



昨年の消雪剤散布の様子

- 1 開催期日 平成29年3月10日（土）
- 2 場所（会場） 飯山市ふるさと館（飯山市大字飯山1434-1）1階 体験広場
- 3 日程
 - (1) 「北信濃の里山を保全する会 定期総会」
 - 10:30～ 受付
 - 11:00～ 開会、あいさつ
 - 議事（当年度事業報告・収支決算、次年度事業計画・収支予算など）
 - 意見交換など
 - 12:00 閉会
 - (2) 「オオルリシジミ生息地雪原ウォーク」
 - 13:00 飯山市公民館駐車場集合、車乗り合わせで出発
 - 13:15 生息地入口着、徒歩で生息地へ
 - 14:00 消雪剤散布
 - 14:15 生息地発
 - 15:00 生息地入口に戻り、解散
- 4 その他 雪山歩きができる装備で御参加ください。参加者には「スノーシュー」の手配をしますので、参加される方は3月5日までに事務局へ連絡してください。

活動報告など

・オオルリシジミ生息地での環境整備

昨年は、生息地でのオオルリシジミの成虫が確認できませんでしたが、シーズン終了後の8月以降も会員の三井さんや坪井さんたちで定期的に草刈りが行われました。生息地では近年クズやヨシなどが繁茂するようになり、食草のクララにも影響を及ぼしそうです。多年生草本の草勢を抑えるためにもこの時期の環境整備も大切なように感じます

10月15日と21日にオオルリシジミ生息地での保護区設営ロープと看板の撤収作業、刈り払い作業を行い、本年度の環境整備はここまでとしました。刈り払い作業は生息地の中段上部の灌木を対象に除伐しましたが、3年手が入らないとカラマツやダケカンバなどの木々は背丈以上、幹も太くなり、刈り払い機での作業が難しくなりますので、早めの対応が肝要です。厄介な外来雑草のワルナスビの実もチラホラ見られ、今後、広がり心配されます。野焼きができればというところですが、人手が限られた中、生息地の維持管理の方法を考えていく必要があります。いずれにせよ、何とか今年は生息地でオオルリシジミの舞う姿を見たいものです。

・カヤ刈りワーキング

生息地でのカヤ刈り（ススキの刈り取り）は、まず、11月12日に「カヤ刈りワーキング」前の様子見をかねて行いました。が、ススキはまだ完全に枯れ込んでいないものが多く、刈り取り時期にはちょっと早い状況。青刈りしたものは屋根の素材としてよくないとのこと。

それでも刈れそうなカヤを見つうろって、何とか軽トラック1台分のカヤを確保しましたが、ここでは11月半ばを過ぎないと、一斉に刈り取れないと感じられました。

「カヤ刈りワーキング」予定の11月18日、前日の予報では雨～雪で、実施すべきかどうか迷いましたがイベントとしては中止とし、一部関係者で様子を見ながら実施することとしました。刈り取り時期としてはちょうどいい頃です。当日は午前中まで曇りで途中小雪が舞いながらも天気が保ち、少人数でしたが、刈れるだけ刈って保管場所の荒船山農村公園の炭焼き小屋に運び込み・・・あとは、後日、天候を見計らって残りを刈るか・・・という算段でしたが、19日から22日にかけて降雪があり、23日に現地に行ってみたところ30cm近い積雪。車も侵入できず、ススキは根元から折れて雪に埋もれていました。今年度の作業は断念せざるを得ない状況で、今年度の作業はこれまでとなりました。カヤの売却収益を10万円目指して画策しておりましたが、残念です。

改めてカヤの刈り取り時期の短さ、短期刈り取りでの労力の必要性を実感しましたが、次年度は刈り取り時期が早い標高の高い場所（戸狩など）との採取の分散や実需者との連携による労力の確保など検討していきたいところです。

戸隠の宿坊では茅葺き屋根の葺き替えに当会で採取したカヤが使われましたが、今後も計画的に葺き替えを行うようで、輸送コストの点からも県内産のカヤが求められています。



今年度採取したカヤ(昨年より少ない・・・)
湿気を防ぐため、丸太と板で台を作り、その上に立てかけ、春まで保管します。



11月の降雪で倒伏し、雪に埋もれたカヤ
こうなるとカヤ刈りは断念です・・・。

・オオルリシジミ生息地での野鳥調査

11月25日、鳥類の専門家の丸山和麻さんとともに生息地での野鳥調査を行いました。現地は積雪で冬景色の中での調査でしたが、上空を飛翔するノスリやカラムツに群がるアトリなど、寒中でも活発に活動する鳥たちを見ることができました。

当日はノスリ、ハイタカ、エナガ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ヤマガラ、イスカ、ホオジロ、ハギマシコ、アトリ、マヒワ、コゲラ、ヒガラ、ハシブトガラス（以上14種）を確認。特に希少種のハイタカ、飯山では初確認（？）となるイスカなど確認できてよかったです。

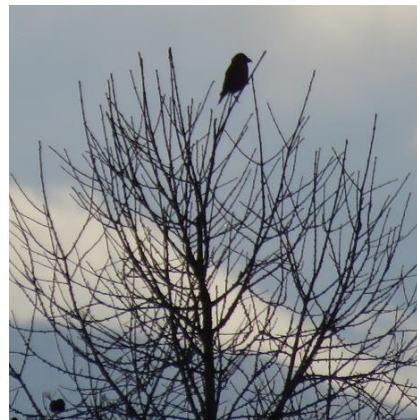
また、春の芽吹きの際、調査したいと考えています。



雪中の野鳥調査でした。



アトリ:大群でカラムツの実を啄んでいました。



イスカ:専門家はシルエットでもわかります。

・オオルリシジミの継代飼育

本年度から飯山市内の会員宅（服部さん、佐々木さん、三井さん）でオオルリシジミの継代飼育が始まり、現在は蛹の状態です。植木鉢に湿らせた鹿沼土を詰め、ミズゴケと共に蛹を入れて（右の写真）蓋をし、寒冷紗で覆い、床下や軒下の土間で保管しています。みなさん飼育経験は初めてで、羽化した成虫の取り込みと交配産卵作業に苦労され、羽化した成虫の割に得られた蛹の数は少なく、必ずしも成功したとは言えませんが（最初ですからね）、来年度以降、飼育法を改良し飯山での増殖を確実にしたいものです。

また、飼育に協力いただける方がいましたら事務局までお知らせいただければと思います。



編集後記

北陸地方では大雪のようですが、飯山での積雪量は平年並のようで、これから雪解けの季節。来年度に向けての計画を立てながら活動準備を進めたいところです。春先の北信濃は芽吹きの新緑が残雪に映え、最も景色がよい季節です。越年生や多年生の草本類が花を咲かせる時期でもあり、信越トレイルなどでギフチョウやヒメギフチョウの調査と兼ねながら植物も調べ、雪国に特徴的なものを記録、紹介していければと思います。ふるさと館の企画展もいろいろな自然をテーマに継続的に行っていくようですので、生物調査についても協力をお願いします。

発行者：北信濃の里山を保全活用する会 会長 井田秀行
事務局：〒389-2253 飯山市大字飯山1434-1
飯山市ふるさと館内
TEL/FAX：0269-67-2030
E-mail：furusato@city.iiyama.nagano.jp
編集者・事務局長：福本匡志